

平成30年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡工業高等学校(定時制)

学校教育目標	1 学業と就労の両立を図り、心豊かでたくましく生きる力を育てる。 2 一般教養と工業の基礎的・基本的学習を重視し、生涯にわたり挑戦する心を持って学び続ける態度と能力を育てる。 3 基本的生活習慣と態度を確立し、ねばり強い実践力と健全な心身を育てる。	具 体 的 目 標	1 学習指導の充実 -社会を生きぬく基盤となる確かな学力の育成- 2 生徒指導の充実 -豊かな心と健やかな体の育成- 3 キャリア教育の充実 -変化に対応し、社会で自立できる力の育成- 4 地域に根ざした魅力ある元気な学校 -地域とつながる生徒の育成-
--------	--	-----------------------	---

達成度 A：達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		自 己 評 価 (年 間)				学校関係者評価		総 括
		具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び取り組み状況等	達成度	次年度に向けた改善策等	意見・要望等	評価	
1	学習指導の充実 -社会を生きぬく基盤となる確かな学力の育成-	・公開授業、研究授業を年2回実施する。わかる授業を実践し、授業改善（探求型学習等）に関する研修会を年1回実施する。 ・各種検定・資格取得を奨励し、卒業までに1人1つ以上の取得を目指す。 ・「マイセルフノート」を活用した基本的な学習習慣の確立と自己管理を目指す。 ・ものづくりの体験を通して工業技術の大切さやおもしろさを理解させ創造力と実行力を培うために、学習内容や作品を紹介する発表会等に参加する。	・公開授業・研究授業は前期1回、後期1回実施した。校内研修会は実施できなかったが、校外研修会の報告会を実施し、職員間で共有した。 ・各種検定・資格は、のべ6名の生徒が取得したが、1人1つ以上には至らなかった。 ・「マイセルフノート」の記入の習慣化を定着させることができなかった。 ・展示スペースを活用し、全年次の作品を展示することができた。 ・研究発表会で発表することができた。	B	・公開授業・研究授業を継続するとともに、授業改善に関するテーマを設定した研修会を実施する。 ・資格、検定取得の重要性を説明し、計画的に学習する場を設定する。 ・HR等を利用して「マイセルフノート」の記入を習慣化させる意識付けを行う。 ・引き続き研究を進める。	・多様な学力、意欲を持つ生徒の学習指導には、多くの苦労があると思うが、全員が各自の目標をもって確実に成長できるきめ細やかな教育が今後も展開、発展することを期待している。 ・学習への意識付けをHR等で根気強く指導願いたい。	B	・確かな学力を育成するため、学習習慣の定着を図り、授業改善や資格取得等を通して、学習指導の充実に努めます。また「わかる授業」「探究型学習」の実践を進めます。 ・生活指導、交通安全指導、保健指導等とおして基本的生活習慣を定着させるとともに、個に応じた計画的な面談活動等を行うことにより、心身ともに健康な生徒を育成します。また、いじめ防止・対策を引き続き徹底して行います。 ・生徒の進路意識を高める指導や事業を計画的に行い、変化に対応し社会で自立できる力を育成します。また、多様な生徒に対して個に応じた進路目標を早期に設定させ、その実現を図ります。 ・定時制教育の情報を積極的に発信するとともに、ボランティア活動等を推進し、地域・外部機関との連携をより深め、地域に繋がる、そして家庭や地域から理解され協力される学校づくりを進めます。また、今後も保護者との面談等を充実させ、保護者との連携を進めます。
2	生徒指導の充実 -豊かな心と健やかな体の育成-	・年間を通して全生徒に対して、全職員による面談を3回計画し、生徒理解を深め、生徒の基本的生活習慣を確立する。 ・いじめ防止と対応の徹底を行う。 ・生徒の自主的な生徒会活動を通し、集団や社会性を育成する。また「生徒会だより」を年3回発行することにより行事参加の促進を図る。 ・車両点検・交通安全実技講習会等の行事や広報活動を通して交通安全意識を高める。 ・心身ともに健康で自ら自己管理ができる生徒を育成すると共に、MH委員会を活用した個別指導と情報の共有を図る。	・全職員による面談を計画的に実施できた。生徒理解が深まり、出席率や成績面での向上が見られた。 ・いじめアンケートを生徒及び保護者に対して年2回実施し、いじめ対策委員会を開催した。いじめの申告はなかった。 ・予定通り3回発行できた。また、生徒会執行部が生徒会行事を企画立案してよく運営し、行事を充実させた。 ・交通事故・交通違反等はゼロであった。 ・MH委員会を継続的に開催し、指導計画の作成と指導方法の共有を通して、生徒理解や個別指導、情報共有ができた。	B	・引き続き全職員による面談を計画的に行い、面談結果を共有し生徒指導等へ活かす。 ・引き続きいじめ予防に努める。 ・引き続き大きな行事ごとにタイムリーに発行する。 ・様々な場面を活用し集団活動の更なる充実を図る。 ・支援が必要な生徒の個別の指導計画を引き続き作成し指導にあたる。 ・特別支援関係の校内研修会の内容を更に検討する。	・生徒との信頼関係を大切にしながら充実した指導ができています。 ・保護者からは高い評価を受けているのではないかと。また、生徒については難しい面が多いと思うが、一人ひとりの性格や人間性を理解した対応をさらにお願いしたい。 ・社会の一員としてのルール遵守指導をお願いしたい。	B	
3	キャリア教育の充実 -変化に対応し社会で自立できる力の育成-	・進路に関わる各種の情報を提供し、進路関係行事を実施する。また、自己の適性を考えさせながら進路目標の実現に向けて努力させる。 ・キャリアカウンセリングの実施等を通して基本的なコミュニケーション能力と自己表現する力を育成する。 ・全校生徒・保護者を対象に進路四者面談を実施する。 ・生徒一人ひとりの進路希望に対応して関係機関との連携を図る。	・進路希望調査、進路講話、進路研修等の行事を予定通り実施した。また、進路だより等を通して生徒に進路を考えさせた。 ・キャリアカウンセラーと連携し生徒対象の個別のキャリアカウンセリングを実施した。また、生徒対象の進路講話を実施し生徒の意欲喚起に役立った。 ・進路四者面談を3回実施し、進路意識の高揚に効果があった。 ・ハローワーク、関係機関や企業等と連携し学内企業交流会を実施した。	B	・生徒の進路実現のためにどのような事業計画が有効かをさらに検討し実施する。 ・引き続きキャリアカウンセリングを実施する。 ・学業との両立を図り、働くことができる生徒を育成する。 ・進路四者面談を継続する。 ・多様な生徒への効果的な進路指導を検討し、進路希望の実現を図る。	・進路研修等を通じ、概ねできている。 ・よくなされているが、さらに生徒の自立を促すよう配慮されたい。 ・雇用主のアンケートから学校の対応の良さが伺える。 ・生徒の希望に沿った進路指導に注力願いたい。	B	
4	地域に根ざした魅力ある元気な学校 -地域とつながる生徒の育成-	・ホームページの月1回以上の更新、「鶴工定通信」の年3回の定期発行等を通して、家庭・地域へ情報を発信し活動の充実を図る。 ・PTA総会、懇談会への保護者の参加を促し、家庭との連携を密にする。 ・ボランティア活動の充実を図り、生徒全員での取り組みを目指すことにより、地域とつながることを目指す。	・計画通りに行事ごとのホームページの更新や「鶴工定通信」の発行を行い、情報発信の充実を図った。 ・来校時に保護者面談等を行うなど工夫をしたが、PTA総会、懇談会の出席者は多くはなかった。 ・「魅力あふれる学校づくり推進事業」の一環として、地域に関連したボランティア活動に生徒全員で取り組んだ。	B	・ホームページ、「鶴工定通信」の更なる内容の検討を行い、情報の発信を進める。 ・PTA総会、懇談会の内容を検討し充実させ、参加者を増やし、連携を深める。 ・地域の外部団体等とも連携し、ボランティア活動を充実させる。	・外へ出る機会をたくさん作ることができ良かった。 ・生徒アンケートの「もっと学校行事や生徒の活躍を地域の人に伝えてほしい」という積極的な気持ちを生かしてほしい。 ・PTA総会等への参加者増加が大切である。	B	
自己評価及び学校関係者評価の改善点等		・それぞれの取り組みに対する意見や要望、評価を検証し課題の解決を進めるとともに、評価項目の内容改善を検討する。 ・さまざまな定時制の教育活動について、より積極的に発信する方法を検討する。						